



トットちゃん広場10周年記念展「みんな、いっしょだよ。」

●2026年6月12日(金)～9月6日(日)

主催：ちひろ美術館
後援：信濃毎日新聞、市民タイムス、abn長野朝日放送、長野エフエム放送株式会社、松川村
協力：講談社、童心社、安曇野ちひろ公園

『窓ぎわのトットちゃん』（講談社）は、黒柳徹子（ちひろ美術館館長）の自伝的物語です。安曇野ちひろ美術館に隣接する、安曇野ちひろ公園（松川村営）では、いわさきちひろの絵で愛されるこの物語の世界を再現したトットちゃん広場（図1）が、2026年でオープン10周年を迎えます。それを記念し、本展では黒柳がつづる物語とちひろの絵を通して、あらためて本書の魅力を紹介します。



図1 トットちゃん広場 撮影：内山温那

戦後最大のベストセラー

『窓ぎわのトットちゃん』

1963年の雑誌「婦人公論」（中央公論新社）に黒柳が書いたエッセイ「私の学校」では、「私は、珍しい小学校を卒業しました。」という書き出しとともに、小学校1年生でふつうの学校を退学になってしまった黒柳が、実在したトモエ学園に入学するまでの経緯や、トモエ学園のユニークな教育について紹介されています。

1974年、黒柳は新聞でちひろの訃報を知ります。ふたりに生前の面識はありませんでしたが、ちひろの絵が好きだった黒柳が花を贈ったことから、遺族との交

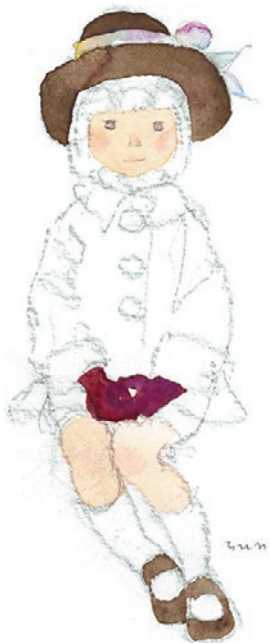


図2 こげ茶色の帽子の少女 1970年代前半

流が始まります。トモエ学園の話を書くなら、いつも子どもの味方であり、子どものしあわせを願っていたちひろの絵を使いたいという黒柳の夢が実現し、1979年には、月刊誌「若い女性」（講談社）で「窓ぎわのトットちゃん」の2年間にわたる連載が始まります。黒柳は毎月、いわ

さきちひろ絵本美術館（現・ちひろ美術館・東京）に通い、ちひろのひとり息子である松本猛とともに、ちひろが遺した作品のなかから、エピソードにあう絵選びを行いました。（図2）

1981年に単行本として出版された『窓ぎわのトットちゃん』は、現在20以上の言語に翻訳され、刊行から45年を迎える今なお、世代も国境も超えたロングセラーとして世界中の人に愛され続けています。また2014年には、『絵本 窓ぎわのトットちゃん』が、2024年には42年ぶりの続編である『続 窓ぎわのトットちゃん』が刊行されています。

トモエ学園での日々

トットちゃんが通ったトモエ学園では、校長の小林宗作先生のもと、戦時下であっても、あらゆる子どもが持つよい性質を伸ばすための教育が行われていました。校門は地面から生えている木、教室は本物の電車でした。教室と図書室は、トットちゃん広場にある2両の電車「モハとデハニ」に再現されています（図4）。



図4 トットちゃん広場 電車の教室

授業は各自がどれでも好きなものから始めてよく、一日の時間割がすべて終われば、午後はみんなで散歩にでかけて自然を観察しました。また、毎日リトミックの時間があり、心と体でリズムを理解するために、講堂のなかで小林先生が弾くピアノの音に合わせて体を動かしました。こうした教育には、ヨーロッパでリトミックを学んだ小林先生の、子どもた



図3 猫とランドセルをしょった子ども 1969年

ちの心身両面の発達と調和を願う思いが込められています。トモエ学園には、ハンディキャップのある子どももいましたが、小林先生は「助けてあげなさい。」とは一度もいわず、「みんな、いっしょだよ。」をあいことばに、なんでもいっしょにやりました。



図5 「このあし たん」 1969年

子どもを見つめて

ちひろの絵がトモエ学園の世界と響きあうのは、ちひろが子どものしあわせと平和を願い、生涯子どもを描きつづけた画家だからでしょう。トモエ学園の小林先生は、子どもひとりひとりの個性と可能性を尊重する教育を重視していました。トモエ学園で学んだ黒柳は、本書の縁でユニセフ親善大使に就任し、「世界中の子どもたちといっしょに」という想いを胸に活動を続けています。子どもの素晴らしさを見つめた、小林先生、ちひろ、黒柳の思いを感じながら、本展では、トットちゃん広場が未来につなぐ「みんな、いっしょだよ。」というトモエ学園の精神を見つめ直します。

(川澄祥)



図6 「にじの はし」 1963年

ようこそ！ザ・キャビンカンパニー 新収蔵作品展

—がっこうにまにあわない・ゆうやけにとけていく—

●2026年6月12日(金)～9月6日(日)

主催：ちひろ美術館
 後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会 協力：あかね書房、小学館

阿部健太郎(1989-)と吉岡紗希(1988-)による二人組の絵本作家、美術家「ザ・キャビンカンパニー」。大分県由布市の廃校になった小学校をアトリエにして、絵本・立体造形・アニメーションなどさまざまな作品を生み出し、国内外で発表しています。本展では、新規収蔵作品となる絵本『がっこうにまにあわない』(あかね書房 2022年)、『ゆうやけにとけていく』(小学館 2023年)の全画面38点を展示します。彼らが描き出す豊かなイマジネーションと、画面に満ちあふれるエネルギーをお楽しみください。

朝を駆け抜ける絵本

『がっこうにまにあわない』



図1 ザ・キャビンカンパニー『がっこうにまにあわない』(あかね書房)表紙 2022年

『がっこうにまにあわない』(図1)は、遅刻してしまいそうな男の子が、いつもの通学路でふりかかるトラブルに負けず、学校を目指す姿を描いた絵本です。今日は絶対に間にあわないといけな日。男の子は、13分間、必死で走り続けます。そのわけは金環日食。校庭を埋めつくす生徒たちに追いつき、急いでいたことも忘れて、いっしょに空を見あげます。「自分たちが芸術や文学、自然の景色を見たときって時間を忘れちゃうんですね。あの時間がすごくいいなって思っ」。時間という概念をこれから学んでいく子どもや、時間に追われている大人の毎日を応援しつつ、時間を忘れてなにかに夢中になれることも大事にってもらいたいという思いが込められています。

本作では、黄色や淡いピンクで描かれた空に、白い輪で金環日食が表現されました。本来、金環日食では空が暗くなりますが、「この子の心情は絶対暗くしちゃいけないから」と、子どもの心情を映し出す色選びがなされています。(図2)



図2 ザ・キャビンカンパニー『がっこうにまにあわない』(あかね書房)より 2022年

また、この絵本には、私たちがよく知っている絵やことばが隠れています。『走れメロス』や宇宙船アポロ。散りばめられたモチーフによって、読者がイメージを膨らますことができるのも魅力のひとつです。

暮れる夕日に人生を重ねる絵本

『ゆうやけにとけていく』



図3 ザ・キャビンカンパニー『ゆうやけにとけていく』(小学館)表紙 2023年

『ゆうやけにとけていく』(図3)は、人の一生にやさしく寄り添える絵本を描きたいという思いから、夕焼けをテーマにした絵本として制作されました。「この絵本は、一日の日が沈むまでの時間も表しているし、春夏秋冬の季節の移り変わりも表している。最初のページで

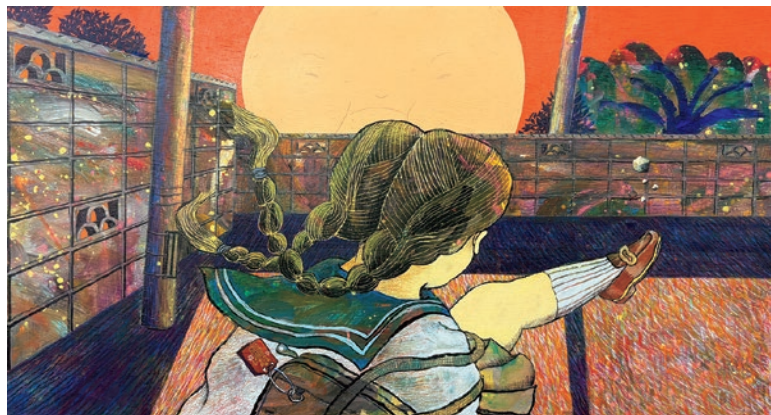


図4 ザ・キャビンカンパニー『ゆうやけにとけていく』(小学館)より 2023年

はお母さんのお腹のなかにあかちゃんがいるんですね。最後のページにはおじいさんたちがいて、人間の一生も表したかったんです。」

本作では、色味と位置を変えながら、すべてのページに太陽が描かれています。太陽には鉛筆でうすく表情が描かれていて、親子の帰り道ではやさしい顔で見守り、怒って小石をける女の子の場面(図4)ではふくれっつらをするなど、登場人物の気持ちを反映しています。

また、作中で女の子が畳に寝ころがりながら広げている本には、吉野弘の『熟れる一日』がコラージュで登場しています(図5,6)。他にも過去の文献の引用が見られ、作家たちが夕焼けをどのようなことばで表現したかを伝えています。



図5 ザ・キャビンカンパニー『ゆうやけにとけていく』(小学館)より 2023年



図6 ザ・キャビンカンパニー『ゆうやけにとけていく』(小学館)より(部分) 2023年

「ただ本を読んでもとか、お風呂に入ってるとか、帰り道とか、この絵本はなにも起きないですよ。でも、なにも起きない、今の一瞬の日常を一番美しく描こうと思って。」

異なる時間が流れながらも、日常に寄り添う2冊の絵本をお楽しみください。

(山本理乃)

ちひろ美術館コレクション 星の下の物語

●2026年6月12日(金)～9月6日(日)

主催：ちひろ美術館

ちひろ美術館コレクションのなかから、世界の絵本画家が描いた星の作品を紹介します。夜空を見上げる機会が増える夏、絵本のなかでさまざまに描かれた星も探してみましょ。



図1 ユーリー・ノルシュテイン&フランチェスカ・ヤールブソワ (ロシア)
『きりのなかのはりねずみ』(福音館書店)より 2001年
アニメーションのつくり手であるノルシュテインとヤールブソワ夫妻が、1975年制作の短編アニメーション『きりのなかのはりねずみ』をおよそ5年の歳月を

かけて絵本化しました(図1)。はりねずみが、いっしょにお茶を飲みながら星を数えるために、友だちのこぐまの家にしかける物語です。うす暗がりの画面に星が輝き、抒情的な世界に引き込まれます。

西巻茅子の『わたしのワンピース』(図2)には、うさぎがつくったふしぎなワンピースが登場します。花畑を歩くと花模様へとまわりの風景にあわせて模様が変わっていくワンピース。次のペー



図2 西巻茅子 (日本)
『わたしのワンピース』(こぐま社)より 1969年/2002年

ジへの期待がふくらみます。小鳥の模様になったワンピースは空をとび、ついには夜空の星の模様になります。



図3 エミリオ・ウルベルアーガ (スペイン)
『こうもりくん』(徳間書店)より 1998年

『こうもりくん』の主人公は暗闇がこわいこうもりの子ども。影がこわくて震えるようすを仲間からかわれる場面(図3)では、木々の間から星がのぞいています。絵本には勇気を出して暗闇のこわさを克服していくこうもりくんの姿が描かれています。(矢野ゆう子)

●活動報告

2026年3月22日(日) 松本猛 スライドトーク 「ちひろと旅する信州」

「ちひろ 心のふるさと 信州」展に関連し、ちひろのひとり息子であり、ちひろ美術館常任顧問の松本猛によるスライドトークを、安曇野ちひろ美術館の絵本の部屋とオンラインにて開催しました。一部を紹介します。(松本麻野)

ちひろと信州ゆかりの地 松本市

ちひろは福井県武生(現・越前市)で生まれましたが、出生届は長野県松本市蟻ヶ崎に出されました。松本市の奈良井川にかかる新橋の橋のたもとの横に、ちひろの母・文江の実家、岩崎家がありました。もともとは、松本城にお米を納める庄屋のような家だったそうですが、その後没落して、文江が生まれたときは種苗屋を営み、大変貧しかったと聞いています。文江は官費生として、当時女性の最高学府だった奈良女子高等師範学校に入ります。卒業後は原則として3年間、指定された学校で教員として勤務する義務があったため、武生に赴任。そこでちひろを出産しました。一方、ちひろの父・倉科正勝も南安曇郡梓村(現・松本市梓川)の出身です。倉科家は、安曇野ちひろ美術館の前を通る県道沿いの大宮熱田神社付近にある比較的豊かな農家でした。ちひろの出産時、正勝はシベリア出征中。帰国後、渋谷の道玄坂に家を借ります。当時としてはめずらしい別居婚の共働き世帯でした。しばらくして、文江が東京の学校に赴任し、家族で暮らすようになりましたが、夏休みなど長い休み

のたびに松本へ戻り、近所の子もたちと岩崎家の裏の城山を駆け上ったり、北アルプスの登山をしたり、上高地へ出かけたたりと、信州に親しんでいました。

松川村

ちひろの両親は、戦後安曇野ちひろ美術館のある松川村へ開拓農民として入植します。ちひろが産した1951年、夫・善明は司法試験の勉強の真っ最中で、ちひろは生活を支えるために、私をちひろの両親がいる松川村に預け、必死で絵を描いて稼ぐという日々がありました。だから、松川村というのは、ちひろにも私にも非常にゆかりのある場所なのです。

黒姫高原

1966年に黒姫へ山荘を造りました。なぜ黒姫だったかといいますが、松谷みよ子さんの師でもある坪田譲治さんという児童文学者が野尻湖畔の土地を町に寄贈し、それに感謝をした当時の町長が、児童文学関係者に坪100円とか200円で販売してくれたそうです。赤羽末吉さんやいぬいとみこさんたちも買って、黒姫児童文化村ができました。黒姫山荘では『花の童話集』『万葉のうた』『あかまんまとうげ』などの本を描いています。現在、黒姫山荘は黒姫童話館に移築し、公開されています。また、安曇野ちひろ公園には復元された山荘があります。

ちひろの原風景

黒姫高原を母と歩いたときに、母が宮沢賢治の詩を暗唱し、これには視覚的な

要素がたくさんあると話していました。高原の光と風、温度というものを感じていたのでしょうか。また、少女を描くときは、自分の小さいときを描いている気がするかと話しています。つまり、ちひろの絵には、自分が育った松本や安曇野、山荘を建てた黒姫高原で感じた自然などが空気として存在しているのだらうと思います。自然、万葉集、宮沢賢治、あらゆるものから要素をもらって絵に生かしている。その原点にあるのが信州であったのではないかなと思います。たとえば、この絵* (図参照)の少女の向こう側に見えていたのは、北アルプスかもしれません。この時期は、黒姫の絵をよく描いていたので、黒姫高原かもしれないし、海かもしれません。絵は、自由に見ているのです。つくる人は創作の自由、表現の自由がありますが、見る側は想像の自由、鑑賞の自由がある。両方とも自由です。そうして絵というものは広がっていきます。自由に想像することも、絵の楽しみ方なのです。



緑の風のなかで 1973年

ひとこと ふたこと みこと



3月1日(日)
子どもたちのしあわせと平和を願ったいわさきちひろさんの絵。とてもやさしくステキです。今の日本は戦争へ向かおうとしている。平和憲法の改悪なんて、するべきではない。0歳と4歳、ふたりの子どもがいますが、この子どもたちの未来が平和であるようにと切に願います。もっともっと、いわさきちひろさんの思いが絵とともに、たくさんの方々へ広まってほしいと思います。 A・K

3月6日(金)
弟と春休みのドライブで来ました。いつもなにかあるとちひろ美術館に来たがる弟。自然に身をまかせてリフレッシュできる場所に、これからもたくさんの方が訪れますように。そして明日からまたがん

ばろうと思える場所でもありますように。心を込めて。

3月7日(土)
わたしがまだ小さいときに1度来ましたが、あまりきおくがないので、ほぼはじめてきました。缶バッジづくりもしてとっても楽しい思い出になりました。

3月*日
私たちの国では、やはり教育、大学、政治など、多くのものに戦争の影があります。人は多くのものを一度に見られないので、多少を省くことがあります。戦争を伝える分野でも同じ理由で、より残酷な悲劇がクローズアップされがちであると私は感じます。しかし、ちひろさんの絵本は、ひとつひとつの悲しみに、日の光が当てられたような、ていねいさとやさしさがあり

ました。私たち戦後の世代にも反戦の意が根づくよう、多くのものが試みられてきました。ちひろさんに学んだ大事なことは、目を背けずにひとりひとり、ひとつひとつに心をよせて、考えることだと思いました。年月や経験の問題でなく、考えることが人類にとっての共通の宿題であると、改めて気づくことができました。14の少年より
黒姫山荘ノートより
12月2日(火)
森のなかでこんなお家に住みたい。庭があって家族の団らんがあって、野の花や窓の外に木や湖、山々が見えるアトリエで静かに絵を描いていた。いつ来ても変わらぬおだやかな時間が流れるこの場所は、心のよりどころのような場所です。

美術館 日記



11月29日(土) ☀
恒例の国営アルプスあづみの公園での「安曇野アートライン展」が始まる。当館は「ちひろ アンデルセンの絵本」をテーマに人魚姫などのピエゾグラフィを展示。イルミネーションでにぎわう国営公園で、安曇野の美術館の魅力を伝える展覧会として定着してきた。

1月29日(木) ☀/☁
「あづみの学校ミュージアム」(安曇野市教育委員会主催)の出前授業のため、穂高東中学校へ。安曇野市内外の美術館・博物館が作品や資料、レプリカ等を学校に持ち寄り、生徒はグループごとに各館のブースをまわって、学芸員の説明を受けながら鑑賞した。ちひろの絵は《母の日》が大人気。思春期真っただ中の中学1年生だが「絵のなかのお母さんは、笑っ

ていると思う。」と、はにかみながらの発言が微笑ましい。

2月19日(木) ☀
共生の庭にふきのとうが顔を出した。今年は雪が少なく公園にも根雪が見えない。土のなかからぼこぼこ出てきた、かわいらしい緑色の「ふきったま」(長野県北部のふきのとうの方言)は、少し早めの春の訪れを知らせてくれた。

2月24日(火) ☁
展示替2日目。25年ぶりの「ユゼフ・ヴィルコン展」では、常設の《アフリカン・ブルース》や《魚》に加えてさまざまな立体作



品も展示される。《歌うドラゴン》は、5体それぞれを抱えて収蔵庫から移動。170cmほどあるドラゴンを抱えると、まるでいっしょにダンスを踊っている気分に。木のふくろうや小鳥もケースで展示。ヴィルコンの愛情がこもった作品たちとの久々の再会に顔がほころぶ。

3月1日(日) ☀
「ちひろ 心のふるさと信州」の展覧会にあわせ、絵本カフェのメニューに信州名物「おやき」が登場。野沢菜とひじきの2種類のセットで、味覚でも信州を堪能できる。「ユゼフ・ヴィルコン展」関連では、ポーランドの老舗紅茶ブランドLOYDのクランベリー&ラズベリーティも展示期間限定メニューに。鮮やかな赤いハーブティの甘酸っぱい香りが春らしい。

風

Vol.12

旬なできごとをピックアップしてお届けします

今は私たちにとっての新たな戦前なのではないかと思わせるようなニュースが続いています。アメリカによるベネズエラへの内政干渉やイランへの爆撃は記憶に新しく、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルによるパレスチナへのジェノサイドは終わる兆しがありません。日本国内に目を向けても、他国の軍事行動への加担や、沖縄をはじめとした地方、社会的に弱い立場の人々に負担を強いるかたちでの軍備拡大が進められており、平和とはいいいがたい状況です。世界の現状に、不安な気持ちを抱える方も多いのではないのでしょうか。

いわさきちひろは「世界中のこ

ども みんなに 平和としあわせを」と願い、絵筆を握り続けました。ちひろ美術館では、その思いを多くの人に伝えるため、さまざまな取り組みを行っています。

公式サイト「願いを伝える活動」のページでは、ちひろの願いを伝えるさまざまな活動を紹介しています。そのなかのひとつ、憲法カードは、2022年に誕生しました。表面にはちひろの作品が、裏面には日本国憲法の前文と9条が印刷されています。ちひろ美術館は、日本国憲法が子どもたちの平和でしあわせに暮らす権利を守るものであると考え、その理念の実現を目指しています。憲法カードは、サイトからダウンロードができる

ようにしているほか、館内でもお渡しています。日常のなかで反戦のメッセージを示し、平和への思いを広げるツールとして、活用していただくことができます。

世界で平和を求める声が高まる今、自分になにができるのかと考えている方も多いかもしれません。ちひろの作品や絵本、こうした取り組みが、平和について考え、思いを分かち合う一歩となることを願っています。(小林知世)



●次回展示予定 2026年9月11日(金)～12月15日(火)

〈展示室1・2〉

いわさきちひろと堀文子 童画の世界

いわさきちひろと堀文子は同じ1918年に生まれ、激動の昭和の時代を生きてきた同世代の画家です。ともに青春時代を戦争のなかで過ごし、戦後の復興のなかで児童出版の発展に大きな足跡を残しました。本展では、ふたりの絵と人柄を愛する黒柳徹子(ちひろ美術館館長)の視点も交えながら、同時代を生きたいわさきちひろと堀文子の童画家としての仕事を紹介します。



堀文子『トツパンの絵物語 15 青い鳥』(フレーベル館)より 1969年

〈展示室3〉

ちひろ美術館コレクション 波にゆられて舟の旅

〈展示室4〉

絵本の舞台を求めて 赤羽末吉の日本一周

赤羽末吉(1910-1990)の絵本は、旅とは切り離せません。雪国への旅がきっかけとなった最初の絵本『かさじぞう』以後も、日本各地の民話や、源平合戦などの歴史の舞台、日本の神話の舞台などを取材して、北海道から沖縄まで日本全国を歩いています。本展では赤羽末吉の旅と絵本との関連をひもとき、その絵本の魅力を紹介します。



赤羽末吉(日本)『黄金りゅうと天女』(BL出版)より 1978年

安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。

下記イベントおよび展覧会の会期は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話にてお問合せ下さい。

TEL.0261-62-0772 [chihiro.jp](https://www.facebook.com/chihiro.jp) [f](https://www.instagram.com/chihiro.jp) [X](https://www.x.com/chihiro.jp) [ig](https://www.instagram.com/chihiro.jp)

〈展覧会関連イベント〉

●ザ・キャビンカンパニー アーティストトーク

○日時：6月12日(金) 14:30～15:30
○参加費：無料(入館料別)
○申し込み：要事前予約(公式サイト/TEL.にて)
※アーティストトーク終了後にサイン会を開催予定です。

●ザ・キャビンカンパニー絵本づくりワークショップ 「わたしのかいじゅう」

○日時：6月13日(土) 13:00～15:00
○参加費：500円 ○定員：30名
○会場：松川村・すずの音ホール
○対象：小学生以上
※小学生未満の場合は保護者同伴
○申し込み：要事前予約(公式サイト/TEL.にて)または、松川村図書館(TEL.0261-62-0450)にて
※ワークショップ終了後にサイン会を開催予定です。



●中学生ボランティアがこの夏も活動します

地元松川村立松川中学校のボランティアが、夏休み期間中に、水彩技法ワークショップ、ザ・キャビンカンパニーの絵本の読み聞かせを行います。日程など詳細は、公式サイトをご覧ください。

●ギャラリートーク

○日時：6月20日(土)・7月18日(土)・8月22日(土)
○14:00～ちひろ展
○14:30～ザ・キャビンカンパニー展
○参加費：無料(入館料別) ○申し込み：不要

●絵本のじかん

○日時：7月4日(土)・9月5日(土) 11:30～12:00
○参加費：無料(入館料別) ○定員：20名 ○申し込み：不要

●ちいさなおはなしの会 at 絵本カフェ

○日時：6月28日(日) 11:00～
○参加費：無料(入館料別) ○定員：20名 ○申し込み：不要

〈会期中のイベント〉

●ちひろ忌

○日時：8月8日(土) 9:00～17:00
2026年8月8日、いわさきちひろ(1918～1974)がこの世を去って、52年目の命日を迎えます。当日は、ちひろが生涯願った世界中の子どもたちのしあわせと平和への思いをご来館のみなさまと分かち合う一日にします。この日ご来館の方に、ちひろのこぼれカードを差し上げます。



いわさきちひろ「新聞紙で遊ぶあかちゃん」1967年

●松本猛ギャラリートーク

○日時：8月8日(土) 14:00～14:30
○参加費：無料(入館料別) ○申し込み：不要

●夜のミュージアム



撮影：中川敦玲

○日時：8月22日(土) 9:00～20:00
夕暮れどきからライトアップされた幻想的な夜の美術館(設計：内藤廣)で、ゆったりとした時間をお楽しみください。ちょっとしたわいおはなしの会や「おばけに変身!ワークショップ」も開催します。この日、ちょっとこわいおばけの格好または浴衣でご来館の方には、絵本カフェドリンクチケットか、ショップ10%OFFチケットをプレゼントします(カフェは19:00閉店)。

安曇野ちひろ公園 イベント 最新情報：chihiro-park.org

●おでかけホリデー

○日時：5月23日(土)、6月27日(土)、9月26日(土)、10月24日(土) 10:00～15:00
食体験や、おさんぽ会、マルシェなどを開催します。

●安曇野ちひろ公園リニューアル10周年 トットちゃんの夏祭り

○日時：7月25日(土)
お問合せ：安曇野ちひろ公園 TEL.0261-85-8822

CONTENTS 〈展示紹介〉トットちゃん広場10周年記念展「みんな、いっしょだよ。」…②/ようこそ!ザ・キャビンカンパニー 新収蔵作品展-がっこうにまにあわない・ゆうやけにとけていく…③/ちひろ美術館コレクション 星の下の物語 /〈活動報告〉松本猛スライドトーク ちひろと旅する信州…④/ひとことふたことみこと/美術館日記/風…⑤

美術館だより NO.120 発行2026年4月22日